

3. 湖南省藍山県過山系ヤオ族の言語学的研究

【研究代表者】廣田律子（経営学部教授）

【研究分担者】〔学内〕泉水英計（経営学部准教授）、彭国躍（外国語学部教授）、松浦春樹（工学部教授）、松丸正延（工学部教授）、三村宜敬（理学部非常勤講師）

〔学外〕丸山宏（筑波大学人文社会科学研究科教授）、吉川雅之（東京大学大学院総合文化研究科准教授）、吉野晃（東京学芸大学教育学部教授）

【研究の目的と概要】

目的

中国湖南省藍山県に居住する過山系ヤオ族が伝承する儀礼の調査を通じて、儀礼の実践及び儀礼で使用される文献の両面から、ヤオ族の儀礼知識の全容を把握し、全体像を明らかにしようとして取り組んでいる。

儀礼の実践においてヤオ語（ミエン語）が使用されるのにもかかわらず、儀礼が漢語文献の読誦により進行するため、文献の解説を優先して行い、これまで言語学的なアプローチがまったく手つかずの状態だった。ヤオ族の儀礼知識のさらなる解明を目指す上で不可欠といえる言語学的研究を進めるにあたり、藍山県ヤオ族の日常生活用語である基礎語彙集（2000～5000語彙及び文例）の作成と言語の基本構造の解明から始めようと考え、本研究を立ち上げた。

概要

言語的には交差点を示し、声調や変調の仕方も複雑なヤオ族の語彙を分析することで、歴史的に何回も経てきた中国語からの借用語の実態やこれまで接触してきたエスニックグループの解明といった新しい知見を得ることになる。言語学的な分野から儀礼知識の変遷の一端が明らかにされることで、ヤオ族独自の民俗宗教と道教からの影響についての解明にも繋がると考える。

本研究により、漢語との言語取替が進みつつあり、言語保存が急務となりつつある少数民族の言語の継承の重要性を喚起する役割を果たすことにも繋がると考える。

【研究計画】

2013年度は予備調査と位置付ける。

1. 藍山県湘藍村の儀礼を行う宗教職能者の家に生まれ育った20歳台の趙付佑さんをインフォーマントとして10月～1月まで週に1回程度（5時間程）お願いし、基礎語彙集作成に必要な日常会話の語彙（約2000語目処）の記録作業を行う。
2. この際ICレコーダー及びビデオにより発音や口の形等の録音録画を行う。
3. 記録した語彙は国際音声字母により記述化する。
4. 録音データを整理し音韻体系帰納及び音素の抽出作業を行う。